

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「ゆったりと自由にありのままに」の理念の下、「サテラ便り」を町内の回覧の中に定期的に入れて頂くなど、住民の一員として地域の中で暮らし、認知症への理解を自然にし理解して頂けるような解り易い理念を作り上げています。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の書かれた額を職員が日々通る見えやすいホームの入り口に掲げ、理念を理解してもらい、日々の仕事に役立てた認知症の介護ができるよう管理者と職員で話し合い、日々実践に取り組んでいます。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム入り口に理念を掲示し、ご家族や訪問者に理念を理解して頂ける様にしている。又、毎月作成している「サテラ便り」をご家族と町内の回覧板に掲載して頂いたり、毎月一度担当職員から各入居者様のご家族へお手紙を書き郵送し、理解して頂くよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方とは、ホーム行事に参加して頂いたり、町内行事に参加させて頂く事により、地域の方々から気軽に声をかけて頂けるようになってきました。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会自体に高齢者が多く、高齢者むけに沢山の支援を独自でしている地域なので色々声かけて頂いて参加し地元の人々との交流に努めています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	独居の高齢者が多い地区で、職員の声かけや挨拶の取り組みで地域の方々の気がるに立ち寄れる場所となるよう話し合い取り組んでいます。		地域の方々と話し合い年中行事(お餅つき・豆まき・ひな祭り・夏祭り・クリスマスその他イベント)に気軽に参加して頂けるよう取り組んでいきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム内に苦情窓口を設けている。又、社会福祉協議会内運営適正委員会や北海道国保連、北海道社会福祉協議会苦情窓口等を記載した説明書をご家族へ渡し、ホームにも掲示している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>利用者様急変時は管理者よりご家族へ即連絡してます。又、毎月一回サテラだよりで、暮らしぶりや健康状態等について報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム入り口にご意見箱を設けている。又、社会福祉協議会内運営適正委員会や北海道国保連、北海道社会福祉協議会苦情窓口等を記載した説明書をご家族へ渡し、ホームにも掲示しています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>カンファレンス時や職員より希望があった時に、意見や提案を聞き話し合い反映させています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>三対一の介護が出来るよう職員の休み希望を取り入れつつ、勤務の調整に努めています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>極力移動はおさえています。常に一階二階の隔たりをもたず利用者様が何処にいてもなじみの職員は声かけ対応をするよに指導、実行しています。</p>		<p>職員が働きやすい職場をつくり、隔たりのない意見交換で、離職者へらしの職場づくりをしたいと思ひます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の能力や経験に合わせた研修を進め受講したり、他施設の見学をし自己施設の見直しに勤め働きながらのトレーニングと向上を進めています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近隣の同業者に質の向上を定期的にご指導頂いて、実施しております。</p>	<p>ネットワーク作りや勉強会は当施設の質の向上につながるので、今後も沢山の活動や交流を持ちたいと思います。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ホーム全体の雰囲気づくりを大切に、互いの挨拶や声かけで明るくし管理者や職員同士で助け合いをし隔たりを造らない様に努力しています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員個々の能力や努力や経験に合わせ、研修の機会をつくっていますが、新入社員が何人か入られたので改めて各自の向上に努めたいとおもいます。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に、何度か面談し生活歴などを聴取し、ご本人が困っている事、不安な事、求めている事等を受け止める努力をしています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に、何度か面談しご家族からも入居するご本人の生活歴等を聴取している。その際、困っている事、不安な事、求めている事も納得して頂くまで聴き、信頼関係を築く努力をしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居時、ご本人とご家族に生活歴をアセスメントし、ご本人やご家族事を把握し、必要としている支援を見極められるよう努めています。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>生活歴やライフストーリーを考慮しながら、ユニット責任者と各利用者様担当者が中心となり、ご本人の感情の変化を把握しながら、安心出来る環境作りに取り組んでいます。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、ご本人の出来る事出来ない事の見極めを行い、可能な範囲で居室やホーム内の掃除・調理・買い物等を一緒に行っている。その中で、調理方法や生活の知恵を教えています。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>当ホームは、敬老会・クリスマス会・餅つき大会等の行事に、ご家族にも参加して頂き、ご本人を中心に支える関係を築くよう取り組み、喜怒哀楽を共有しています。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご本人とご家族の関係の情報を集め、ご本人がご家族へ寄せる思いを伝えたり、ご家族からの思いをご本人に伝えたりしています。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居の際は、出来る限り馴染み親しんだ家具を持って来て頂いている。又、ご家族からご自宅で生活していた時の友人関係なども伺い、出来る限り継続できるように努めています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様一人ひとりの性格をアセスメントする事により、利用者様同士が日常生活の中で助け合い、支え合う事が出来るよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了後でも、利用者様・ご家族に必要とされれば相談に応じさせて頂いています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望・意向に耳を傾け、ご本人の状況を踏まえた上で、管理者・職員が相談し、希望に沿うよう取り組んでいます。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、利用者様・ご家族から情報提供して頂き、それをアセスメントシートに落とし、管理者・職員が共有出来る仕組みを取っています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の個人日誌・生活日誌・朝夕の申し送り・職員同士での連絡ノート(日常的・身体的)等により、一人ひとりの日常の過ごし方、身体状況の変化を職員が共有出来るように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	各利用者様担当者により、毎月個々のモニタリングを作成し、計画作成担当者や管理者と話し合いを行ない、介護計画作成に繋げている。又、カンファレンスで職員全体で話し合いを行い、担当者以外の意見も反映しています。ご家族からは、居宅サービス計画書(1)を返送して頂く際に意見や意向をそえて返送して頂いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の受診、二週間に一度の往診、一週間に一度の訪問看護等の活用を行っています。その中で、日常の健康管理、医療相談等の支援を仰いでいる。訪問看護の際に、ミニ勉強会を定期的に行って頂いています。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医ではないが、アドバイスを頂ける医師がいます。		
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週一度定期的に訪問看護を実施している。その際に日常の健康管理と医療活用の支援を行っています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	個人情報保護法により医療機関からの情報提供が徐々に困難になってきているが、ご家族を交えて医療機関と連携を取り情報交換を行っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居される際、重度化の指針や看取りの指針を提示し、ご家族へ説明している。又、利用者様の身体低下に伴い、ご家族・Dr・訪問看護・管理者・スタッフを交えて話し合いを行っています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の高齢化に向け重度化が進む中、看取りは着実に考えていかなければならない課題です。		研修や勉強会等出席し、今後の変化に対応出来るよう職員のスキルアップに取り組んで生きたいと思えます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご本人の精神的負担にならないよう配慮し、ご家族、関係機関との情報交換を行い、利用者のダメージが最小限に留まるように支援しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員には入社時、個人情報了他にもらさないと誓約書を提出してもらっています。又、利用者様一人ひとりを人生の先輩として尊厳をもち対応しています。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。	利用者様の生活歴を通し、趣味・得意な事をふまえて希望にそよう働きかけている。又、利用者様に合った声のトーン・言葉掛けを行い、上手く言葉が出てこなくてもゆったりと待つ姿勢と傾聴を心掛け、残存能力を少しでも維持していけるように支援している。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に利用者様主体で話し合い、日々の生活を利用者様のペースで暮らせるよう支えている。又、一人ひとりの能力に応じて選択の幅を考え、場面の提供を行い、答えを急がせず待つ姿勢を大切にしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節や気候、好みに合わせた装いのお手伝い・支援に取り組んでいる。又、ホームに2ヶ月に1回訪問美容に来て頂いているが、利用者様が希望する時はご本人の望む理容室・美容室に行けるよう努めています。身に着けるものや居室の装飾品などは、ご家族の了解を得た上で、利用者様主体となって選べるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	お買い物や調理を手伝って頂き、その際、調理法や味付け等を教えて頂いたり、利用者様と共に行えるよう工夫しています。又、イベント時(お餅つきやお誕生会など)食後の片付け等、一人ひとりの能力に合わせて行って頂いています。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	成人病により、食事制限のある場合のみ嗜好の量の制限はありますが、各入居者様の嗜好品に合わせたおやつを購入したり、外出時にビール等を飲まれたりと、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるように支援しています。又、タバコもご本人が要求した際は吸って頂きますが、現在喫煙される方はおられません。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを知り、時間誘導を行い自発的動作があった時には、さりげなく支援を行っています。その事により、尿とりパット・リハビリパンツ使用の利用者様が減って来ています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の入浴日は決まっていますが、出来る限りご本人のご希望に沿って入浴して頂いていますが、介助や見守りが常に必要な入居者様に限り日中ゆっくりと入って頂いています。その際は、入浴前にはバイタルチェックを行い健康チェックも行っています。(特に就寝前の入浴を希望される時は他の入居者様の状況を見ながら対応しています。)		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者様1人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活のリズムを整え夜間良眠して頂けるよう支援しています。。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の出来る事をさり気なく見守り、職員と一緒に掃除・調理・洗濯物たたみを行っています。又、玄関前の雪かき・花壇の水やり・ゴミ出しや郵便物の取り出し等、好きな事と出来る事の役割、場面作りに取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>利用者様1人ひとりの希望や能力に応じて自己管理を行って頂いたり、事務所管理で支払をしています。利用者様自体管理が不十分でも場合によっては職員が付き添って買い物を楽しんでいます。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者様の希望にそって出来る限り外出しています。又、ホーム前での日光浴・ホーム周辺の散歩・ドライブ等を支援しています。気候や体調にもよりますが、日常的に出来るだ戸外へも出かけるよう支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お食事会を外で楽しんだり、海へのドライブ・ホテルでの敬老会やクリスマス会・お花見や紅葉見物等、ホーム全体での行事で普段行けないような場所へ外出支援しています。2～3名での外食やお買い物の支援も行っています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話が設置してあり自由に使用して頂いています。お手紙を書かれる方は現在ではおられないのですが、事務所や職員に気軽に自宅に連絡をしたいと入居者自身で自らこられる環境ですでお話を聞きながら一緒にお電話をかけるなど支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限はありません。常に自由に訪問して頂けるよう支援しています。日中は玄関も施錠なく、面会簿も記入も職員チェックのみではありません。ご家族のご希望で宿泊も自由です来るよう配慮しています。(つい最近もどういう暮らしをしているか見たいと希望され宿泊されていかれたご家族様がおられました。)		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の意味を理解し、身体拘束のないケアを実施しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の入り口に鈴を付け目だけでなく耳でも確認出来るようにしており、日中は開放しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者様のプライバシーに配慮しながらケアに取り組み、事故のないよう見守り、所在の様子を確認しながら支援している。又、リビングには常に職員がおり、利用者様の個々の動きや状況を把握出来るようにしている。居室で過ごすこと多い利用者様には、職員が訪室し利用者様と談話しその中で状態を把握しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品の保管場所は統一し明確であり、職員全てが把握している。(包丁等は夜間ふた付きケースに入れ保管している)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全員が利用者様の身体状況や心理状況を理解し、一人ひとりの対応に取り組んでいます。(職員連絡ノートを使用)		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各ユニットに緊急マニュアルを設置している。ホーム内で救急救命講習を年一度必ず実施し、職員に応急処置や初期対応の訓練を行っていますが、新しい職員には正式な講習会をしておらず不十分です。		今後旧、新職員も合同で定期的に応急処置や初期対応の訓練をしたいと思えます。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回避難訓練を実施している。その際、利用者様・職員・ご家族・地域住民も参加している。ホーム内に緊急時の為の食品・避難用具等を設置し、定期的に点検を行っています。災害時の町内との連絡網を町内の協力により作ったり、協力体制が出来ています。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	常にご家族との連絡をとり、話し合いの機会を設けている。Dr・訪問看護師・ご家族・管理者・計画作成担当者・ユニット責任者でリスクに対する対応策等を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的を受診・往診をし、状態の把握を行っている。又、週一度の訪問看護により、日々の健康管理チェックを行っています。職員全員が把握出来るように、毎日の日誌以外に受診・往診の際のDrからの指示をファイルにしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別のファイルの中に薬表が綴じられており、常時職員が把握出来るよう設置されています。服薬が変わった際は、連絡ノートにて職員が情報を共有出来るようにしています。夜勤者が次の日の薬をセットする体制をとり、定期に行なうことで間違い防止に努めています。(朝・昼・夕分けて容器にセット)		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排泄チェック、水分補給、軽度な運動(散歩・筋トレ・廊下歩行等)の支援を実施している。又、食材の工夫等を行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の義歯洗浄、歯磨きの見守り介助を行い、日常的に支援している。又、定期的に訪問歯科医師による口腔チェックをして頂き、口腔内の清潔保持を支援しています。が未経験の新しい職員が増えたため内容を理解してもらえるように改めて見直したいと思います。		訪看による口腔ケアの勉強会を予定しています。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材屋さん専任の栄養士さんにより、バランスの取れたメニューの組み立てと毎日の水分量チェック、利用者様一人ひとりに合わせた食事量や盛り付け、咀嚼・嚥下機能に合わせた刻みなどの工夫を提供しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様・職員全員がインフルエンザ予防接種を毎年接種している。ホーム内には感染予防の対応マニュアルを設置し、職員の意識付けを行っている。又、ホーム内の掃除時、トイレのノブ・蛇口・手すり等利用者様が随時触れる箇所の消毒の徹底、台所の片付け後の消毒の徹底を行っている。又、外出後のうがい手洗いを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所専用のエプロンの設置、台所の消毒、布巾、まな板の消毒の徹底、冷蔵庫・洗濯機は定期的に消毒を行っています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関の入り口は、緩やかなスロープになっており、暖かい日はベンチ島で過ごせるスペースがある。建物の周囲は草花を植えるスペース等を確保しています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>廊下の壁には、行事で写した利用者様の写真を飾ったり、植木鉢や金魚の水槽をさり気なく置いたり、又、季節毎に四季を感じるように額の中に花等を飾ったりとして、家庭的な雰囲気近づけるよう取り組んでいます。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間にはそれぞれ思い思いに過ごせるソファや和室を設けたり、廊下や階段の踊り場には椅子を設置し、一階二階の利用者様同士で過ごせるよう、工夫している。又、スタッフルームを利用者様に開放しています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室には使い慣れたタンス・お仏壇・ご家族等の写真を飾られ、その方らしい居心地の良い空間となっている。又、買い物の際は、居室の装飾品等も自由に買われています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>空気の入替えや、室内の温度・湿度を湿度計を使用し管理している。夜間も湿度計、利用者様の体温をこまめに観察し、温度管理を行っています。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・トイレ・階段に手すりが設置され、浴槽内には滑り止めマットを使用し、安全に努めている。廊下の幅も広く、車椅子同士ですれ違う事が可能なスペースをとっている。又、階段の高さもお年寄りに合わせて低く設置しています。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者様が使用している物等の位置を変えず、混乱を招く事のないようにしている。混乱が見られた環境に対してはすぐに対応しています。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周囲には、小さな花壇やプランタンの花やベンチ等を設置し、夏にはバーベキューやミニイベント等を楽しんでいます。</p>		

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>常に利用者様の思いや願いを暮らしの中に取り込んではいりますが、成人病による食事制限により、ご本人の意向にそえない事もある。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ゲームやカラオケを楽しんだり、その人に合わせた対応でゆったりと過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>毎日の生活の中で、利用者様一人ひとりが穏やかな表情で過ごされている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>日常での支援はもちろん行事等の実施時、笑顔やその時々を楽しむ姿に生き生きとした表情が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様のその時の身体状況にもよるが、利用者様の意見にそうように支援している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>定期的な医療機関への受診・往診、緊急時の開業医の往診、又週一回の訪問看護による健康チェック等により、早期発見早期治療が出来ているので、利用者様の健康が守られている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様の状況や要望に対して適切な対応をとっている。又、大きな状況の変化があった際には、カンファレンスにより話し合い支援を行っている。その事により、利用者様一人ひとりの表情に束縛のない安らぎのある暮らしが見える。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>管理者は定期的にご家族からの不安や要求を聴き取り、的確なアドバイスを行い、信頼関係を築き上げている。</p>

サービスの実績に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように数日に1回程度たまにほとんどない	地域の方が個人的に訪れる事は少ないが、町内主催の敬老会やバスツアーに参加したりしている。又、運営推進委員会を始めてからはホームに時より訪ねて来てくれる事が増えた。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている少しずつ増えているあまり増えていない全くない	運営推進会議で町内の回覧板にホーム便りを掲載して頂くようになり、行事への参加やお招きを頂く等、理解者が確実に増えている。又、認知症の理解を深めてもらうためにホーム便りに認知症のミニ講座も掲載している。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が職員の2/3くらいが職員の1/3くらいがほとんどいない	多種類の講演会・勉強会への参加を進め、職員の質の向上に取り組んでいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない	利用者様の出来る事出来ない事を把握し、見守り、共に生活をしている。又、一人ひとりの能力を見極め支援に取り組んでいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が家族等の2/3くらいが家族等の1/3くらいがほとんどいない	面会時のご家族の明るい表情や、利用者様の穏やかな姿に感謝の言葉を頂けている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

楽しく生活して頂きたいので、出来る限り様々な所への外出や行事で楽しんで頂いています。又、地域で孤立した状態にならないよう、町内の行事に積極的に参加し、又、ホーム行事に参加して頂く事により、より良い関係を築くよう努めています。